

大規模化で得られた知名度をいかし、多様な販路を展開 ～農事組合法人八幡営農組合～

経営体の概要

現在：平成28年

基幹作物：水稻、六条大麦、小麦、大豆（白大豆、黒大豆）、そば

経営面積：117ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成15年から集落のリーダーを中心に「担い手の確保と効率的安定的な農業経営」とするため検討を進め、翌年、八幡地区6集落の代表者が中心となる準備委員会を立ち上げ法人化に向けて取り組み、平成17年、同地区6集落の全農家642戸が参加する「農事組合法人八幡営農組合」を設立した。同法人の組織体制は、生産・販売・事務管理などを行う4つの部を構成して収益性、効率性を追求し、多角経営に取り組んでいる。また、6つの営農組合では、従来からの地縁・伝統的なルールに基づく人・農地・水利などの管理・調整を行う仕組みを残している。

営農改善のポイント

①省力化

ほ場管理は、地図情報システム（GIS）に基づくほ場マップを活用し、作物別に効率的に管理するための作業計画・管理支援システム（PMS）を導入している。作物別には、水稻は、疎植栽培（坪当たり株数37株植）に取り組み、10a当たりの苗箱数は10～11箱（通常栽培に比べて6箱程少ない）で、収穫量も慣行栽培と同程度を確保し、労力と種苗費の低減を図っている。白大豆は、狭条密植栽培を行い収穫作業を機械化し、かん水は給水栓からうね間かんがいを行うなど省力化を図っている。現在、ほ場の1筆当たりの面積が小さいため、畦を取り除いてほ場を大きくし、作業効率を高めていくことを検討中である。

②流通・販売の工夫・6次産業化

同法人には直売所や食堂（風雅亭（ふうがてい））があり、豆腐などの加工品の販売を行うとともに、ニーズに応じた商品開発を行い消費者の人気を得ている。

六条大麦（シュンライ）は麦茶用としてJAへ出荷している。デュラム小麦は5年前から栽培をはじめ、大手民間会社に販売している。また、パスタとして商品化されれば同法人の直売所でも販売する予定である。白大豆は高級豆腐や揚出豆腐として加工販売し、黒大豆は黒豆茶や黒豆きな粉、黒豆豆腐などの加工販売に取り組んでいる。



（農）八幡営農組合の現体制



大麦の収穫作業



農業用機械

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：兵庫県神戸市、明石市、加古川市、三木市、加古郡稲美町

受益面受：7,313ha

事業期間：平成25～33年度

事業目的：用水改良

主要工事：ダム2箇所、揚水機場1箇所、用水路L=14.9km等

位置図（兵庫県）



東播用水二期地区

<問い合わせ先>

近畿農政局 農村振興部
農村環境課 営農担当
電話：075-451-9161
(内線2452)

(平成28年度調査時点)